

5. 調査結果等のまとめ

(1) 調査地点の状況

- ・ 調査日の直前に、台風9号の降雨に伴う行徳可動堰の開放があったが、今回の調査地点については、目視では、ゴミの漂着もなく、ほとんど影響がないように見えた。
ただし、試料を採取したところ、マテガイの稚貝の殻が多数採取され、このことに関しては、台風の影響の可能性もあると考えられる。
- ・ 調査地点周辺では、日頃からアサリの採取が行われており、調査日にも、アサリを採取する人が多数いた。

(2) 調査結果から

- ・ アサリ、シオフキガイは、全ての地点で出現した。
岸に近い調査地点でアサリの出現割合が高く、岸から離れた調査地点では、シオフキガイの出現割合が高いという傾向があった。
- ・ マテガイは、岸に近い調査地点では出現せず、比較的岸から離れた地点で出現した。
- ・ 酸化還元電位は、岸に近い調査地点において、小さい値を示す傾向があった。
- ・ マガキ、イソギンチャク、カニなどは出現しなかった。
- ・ 現地調査当日の参加者の同定において、最近では、三番瀬ではほとんど見られないと言われている「イボキサゴ」が出現した。
後日、中央博物館に同定を依頼したところ、「イボキサゴ」に間違いはないが、「死殻」であるとのことだった。

6. 成果と課題

平成17年度から実施してきた本調査の成果と課題は以下のとおりです。

(1) 成果

- ・ 市民と県・市の協働でこのような調査ができた。
- ・ 学生や社会人の方など、幅広い方々に調査に参加いただけた。
- ・ 事前勉強会や現地調査、考察、事後勉強会などを通じて、参加者にモニタリングの技術を習得してもらうことができた。
- ・ 参加者の三番瀬への理解促進に役立った。
- ・ 市民・NPOによるモニタリング調査のきっかけづくりとすることができた。

(2) 課題

- ・ 事前勉強会の充実などにより、参加者の三番瀬に生息する生物の知識の習得など採取技術や同定技術の向上、統一を図り、データの精度を向上させる必要がある。
- ・ より幅広い市民の参加を図る必要がある。そのため、NPOとの連携なども進める必要がある。
- ・ これまでの調査は、三番瀬のごく一部のエリアで実施したが、もっと幅広いエリアで試料を採取し、データの比較ができるようにすることについても検討する必要がある。
- ・ 参加者がこの調査での経験を基に、独自にモニタリング調査を行う場合のサポートを検討する必要がある。